

学級集団づくりにおける「同調行動」の問題

木内亜紀（桜美林大学・玉川大学）

学級集団づくりにおける「同調行動」の問題を、多様性が重視される時代の人間関係づくりの視点から検討したものである。教職を目指す大学生のグループディスカッションを通して、「同調圧力が強い状況」と「学級集団づくりの指導」について考察した。同調行動には、良い面と悪い面があり、「同調圧力が強すぎる」と「学級における様々な問題と関係していることを確認した。さらに、多様性が重視される時代の学級集団づくりの方法について検討した。

学級集団づくり、同調行動、同調圧力

1. 問題

多様性が重視される現代社会において、学級集団づくりの指導はどのようにしたらよいのだろうか？日本の社会における伝統的に同質性を重視した人間関係づくりが、グローバル化、多様化した現代社会に合っていないことが指摘されている（菅野, 2008; 鴻上, 2019, 等）。「みんな同じ」という同質性を基本とした人間関係づくりが、集団の団結を強め、集団のパフォーマンスを高めることもあれば、過剰な同調行動を求められることが個性を發揮できないこと、自然体でいられないストレス、いじめなどにつながることも考えられる。

木内(2017, 2018)は、中学校の友人グループにおける過剰な同調行動や同調圧力と対話的な学びの難しさについて検討している。中学校では、友人グループの集団圧力が強く、グループに合わせることに気を使い、自分の意見を言いにくく、自然体でいられないストレスを感じやすいことを報告している。

こうした問題意識より、授業の一環として行ったグループディスカッションを通して、学級集団づくりにおける「同調行動」の問題を検討していく。

2. 過剰な同調行動（同調圧力）と学級集団づくり

まず、学生たちに、学級生活において、どのような状況で過剰な同調行動をとることが求めら

れるのかということ、これまでの学校生活を思い出しながら話し合ってもらった。次に、多様性が重視される現代社会に合った学級集団づくりの指導について検討した。

（研究方法）

調査協力者：教職を目指す大学生 125 名

調査時期：2019 年 7 月

調査方法：教職の授業（学習・発達論）の一環として行った。予習課題として、「同質性を重視した人間関係づくりの難しさ」についての資料を読んでくるように指示した。授業の最初に、同質性を重視した集団の問題についての解説を行った。次に、筆者が作成したワークシートを各自が記入した。さらに、数名のグループに分かれて、グループディスカッションを行い、グループの代表が主な意見とディスカッションの内容を発表した。ワークシートの内容：『①学校生活における「同調圧力が強い状況」や「過剰な同調行動」とは具体的にどのような状況や行動を指すと考えますか？具体的な行動を以下に箇条書きで書いて下さい。』『②「同調圧力」と「学級集団づくり」についてどのように考えますか？』

（結果）

①同調圧力が強い状況、過剰な同調行動

- ・クラス内の決め事（行事、委員会、係決め、等）
- ・休み時間の過ごし方、トイレへ行くこと、教室の移動

- ・服装、髪型、持ち物
- ・集団によるいじめ
- ・教師の「質問ありますか」の問いに、質問があるのに、質問できない
- ・「〇〇さんと同じ考え方の人は手をあげて下さい」と言われて、賛成ではないのに手をあげてしまう
- ・話し合いの時に、集団に合わせなければ、孤立したり、いじめにあったりしてしまう
- ・反対意見が言えない
- ・自分と違う考え方の人を否定する
- ・休み時間に一人であることを悪く言われる（周りが遊んでいる時に、本を読んでいたりとすると、「まじめぶっている」と言われる）
- ・「友達がたくさんいた方がよい」という考えかた（教室に一人でいると、教師に、「みんなで遊びなさい」と言われる）
- ・クラスのリーダー的な人に、自分の行動を左右される

②学級集団づくり

- ・児童生徒に、同調行動の2面性（良い面、悪い面）に気づかせたり考えさせたりする機会を作り、「同調行動の使い分け」ができるような指導をする（例、こういう時には、人と合わせる必要があるが、こういう時は、自分の考えていることを曲げない、等）
- ・個性を大切にしつつも、協調性を生かした学級づくり
- ・自分を表現したり、相手に合わせたりすることを調節することは難しいので、親や教師がサポートする
- ・多様性が重視される社会では、自分の考え方や合わない人と「並存する」ことが重要（人との距離のとりかたを学ぶ）
- ・教師が学級の悪い同調圧力（例、いじめ等）に気づくことができたり、悪い同調圧力を予防したりできる
- ・集団で行動するには、ある程度の同調や規律は必要

- ・同調することは人間関係（友達関係）を構築するために必要
- ・「みんながみんな同じ考え方でないこと」を伝える
- ・教師が児童生徒の話を平等に聞く
- ・教師が多様な意見を認める
- ・児童生徒が自分と異なる意見を許容できるような指導が必要
- ・互いに「ほめ合ったり、認め合ったりできる機会」（例、ありがとうの手紙）を作る
- ・同調圧力を良い方向に向けるようにする
- ・安心・安全な場所（意見を発信することにリスクを感じさせない環境）にする
- ・「一人でいること＝悪いこと」という考えを変える

3. 総合的考察

学校における過剰な同調行動を求められることが問題となる具体的な状況が明確となった。教師がそうした悪い同調圧力に気づくことがよりよい学級集団づくりの第一歩だと思われる。学級集団づくりの指導においては、同調行動の使い分けができるような指導、自分の考え方や合わない人とうまく距離をとっていくことなどの指導が多様性を重視する時代の学級集団づくりとして挙げられた。

4. 引用文献

- 1) 菅野仁(2008) 友だち幻想 一人と人とのつながり>を考えるーちくまプリマー新書
- 2) 木内亜紀(2018) 青年期の友人関係と学習ー友人関係の質と対話的な学びー 桜美林大学教職課程年報, 12, 146-150.
- 3) 木内亜紀(2017) 現代青年の友人関係(2)ー友人グループと心理的距離(中・高・大)ー 日本人間関係学会第25回大会発表, 51-51.
- 4) 鴻上尚史(2019) 「空気」を読んでも従わないー生き苦しさからラクになるー 岩波ジュニア新書